

平成14年度スジアオノリ養殖概況

團 昭紀

平成14年度漁期の概況は吉野川では10月上旬から天然採苗が開始された。10月下旬に本養殖が開始され順調に生産が開始された。11月中旬にノリの原形質が細胞壁外へ吐出し乾燥ができないノリが多く発生した。原因は不明であるが、11月上旬に急激な水温の低下と微細プランクトン（*Thalassiosira* sp.）による赤潮の形成が見られたことが影響している可能性があった。その後、ノリの生産は回復した。

平成14年度漁期の共販数量74トン（前年比102%）、3億2千万円（前年比76%）であった。

1 スジアオノリ養殖技術講習会の開催

平成14年スジアオノリ養殖漁期の直前である8月22日に県漁連において県下スジアオノリ養殖業者約40人に技術講習会をおこなった。人工採苗、冷蔵網などの基本技術の復

習の他に河川によるスジアオノリの生活史の違いや葉体の出現、消失のメカニズムなど新しい知見も紹介した。

2 人工採苗用の母藻の生産と配布

長原、川内、応神、徳島市第一、渭東、徳島市辰巳漁協へ母藻を配布した。配布母藻は吉野川産広域温度対応株（Y1124）と沖縄産の高温耐性株の2種類であった。

3 平成14年度漁期の共販結果

図1に平成13年度、14年度の徳島県漁連共販数量を示した。14年度は前年度に比べ漁期当初から順調な生産となった。図2に年度別共販数量と平均単価の推移を示した。人工採苗等の生産技術の普及により生産量が安定してきた平成11年度以降の単価の低下が著しい。冬漁期の不足分を補うために養殖されてきた春養殖はここ数年おこなわれていない。

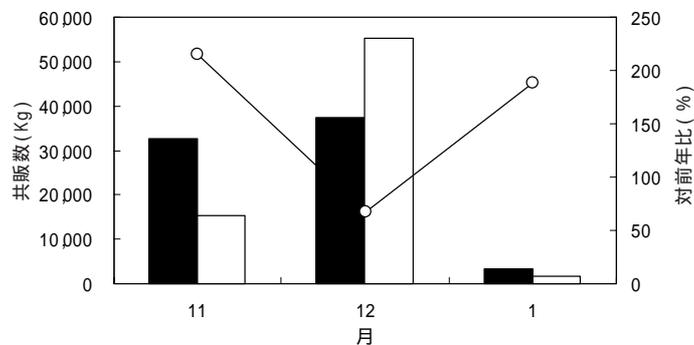


図1 月別共販数量の推移。■、平成14年度；□、平成13年度；○、対前年比

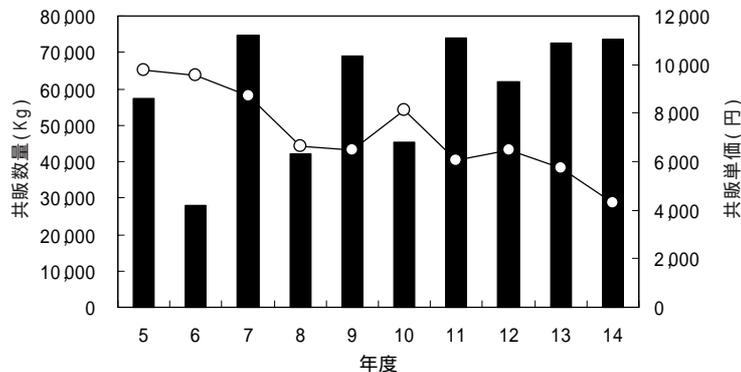


図2 年度別共販数量と平均単価の推移。■、共販枚数；○、共販単価